



平成 30 年 10 月 25 日

岡山大学病院に「漢方臨床教育センター」を開設

岡山大学病院は、複数の診療科・部門の連携を基にした「漢方臨床教育センター」を 11 月 1 日に設置します。

漢方医学は近代まで日本の医療を担っていた伝統医学であり、近年はその必要性・重要性が再認識されています。西洋医学的な視点での研究も進んでおり、改めて漢方薬の有効性が確認され、どのように作用しているかも徐々に解明されてきています。

今後も日本の医療において漢方医学の果たす役割はますます大きくなると考えられるため、それを実践できる人材を持続的に育成していく必要があります。漢方医学に関する教育と診療の体制を充実していくことにつなげ、より多くの患者さんが漢方医学の恩恵を受けることができる環境を整えることを目指します。

<概要>

漢方医学に対してどのような印象があるでしょうか。ある調査によると実に 9 割以上の医師が漢方薬の使用経験があると答えています。近年の西洋医学的な研究成果もあってか、先端医療を行う大学病院の医師もその例外ではなく、岡山大学病院でも多くの科の医師が漢方薬を処方しており、その使用数は年々増加しています。

一方で、漢方医学は伝統的に独特の理論や方法論で形成されており、それをしっかりと学ぶ機会を設けることは重要なことです。医師に限らず、漢方医学に積極的な医療人を集約して知識や経験を共有できる場が必要と考えられ、本センターの設置に至りました。学生教育から臨床での実践へと途切れなくつなげていくためには、漢方医学を実践し教育できる人材の育成が必要と考えます。

西洋医学だけでは容易に克服できない病気や状態があり、漢方医学が必要とされる場面は少なくありません。漢方医学が特に有効である症状や状態もあり、西洋医学と協力することで患者さんがより多くの恩恵を受けることができるよう活動していきます。

岡山大学病院漢方臨床教育センターは、当院において漢方医学との関わりが深い総合内科・産科婦人科・薬剤部を中心に、消化器内科・小児科・大学院の複数の講座といった協力診療科などにより構成されます。さらに、その他の科・部門とも幅広く連携し、漢方医学に関する教育と診療を充実させていきます。

<お問い合わせ>

岡山大学病院 総合内科

准教授 植田 圭吾、教授 大塚 文男

(電話番号) 086-235-7342

(FAX 番号) 086-235-7345

